

江北の四季

令和2年

12月12日

第37号



ナンテン(南天)



オモト(万年青)

○赤い実

通常、実物は祝儀の席には生けませんが、お正月にはナンテン(南天)やオモト(万年青)がよく使われます。南天は難転(難を転じて福と成す)に通じるから。万年青の葉は毎年次々と新葉が出、新葉は三年くらいして枯れ、親、子、孫と葉が続くので、子孫繁栄を表し

ていると言われます。どちらとも、冬の日に緑の葉の中に真っ赤な実をつけ、見るからに縁起の良さを感じさせます。今年は暖かい日が続いたので、どちらも早い時季から赤くなっています。このままでは南天は鳥たちの冬のご馳走になるか、熟して落ちるかで、正月までになくなりそうです。でも、とりあえず網をかけておきましょうか。一方、自家栽培の万年青にはきれいな葉がないので、生け花には無理です。花屋さんで正月花の花材として注文すると四千円とか。万年青は池坊七種伝の伝花の一つなので、稽古はしたいですが、ちよつと二の足を踏みます。立葉(真)、露受葉(副)、前葉(体)、流葉、あしらい、実、：……特別な花形です。もう忘れそう。



ビバーナム

☆ビバーナム 四月頃、小さな白い花を咲かせます。耐寒性があり育てやすい花木です。



赤い線の入る椿



照寒菊(てりかんぎく)

霜にあつて色づいた葉を照葉(てりは)、その寒菊を照寒菊といいます。

○二十四節気は、大雪、次候。七十二候は六十二候、熊蟄穴(くまあなにこもる)。

熊が冬ごもりをする頃。秋にどんぐりなどの木の実をいっぱい食べて脂肪を蓄え、穴の中で浅い眠りに入ります。冬眠ではなく、冬期のえさ不足に対応するために身につけた習性だそうです。小さな物音や匂いでも目を覚ますそうです。メスはこの冬ごもりの間に子どもを産みます。

私たちは熊さんのように冬ごもりはできませんが、冬への準備は必要です。来週からは寒気が南下するようですので、我が家の車、四台分すべて、この週末に一人で冬用タイヤに入れ替えました。ハーハー、フーフー、でした。とりあえずこれで安心。

○煤^{すすばら}払い

江戸時代は十二月十三日が煤払いの日と定められていて、この日の煤払いから、お正月の準備が始まるといふことのようにです。私が子供の頃はまだ竈^{かまど}や五右衛門風呂でしたので年末の大掃除は大変でした。煤が落ちるとよけい汚いので、煤払いは蜘蛛の巣をとる程度にして、実際にはぬれ雑巾で天井や柱を拭いていました。鞍掛^{くらかけ}(脚立^{きゃたつ})に乗って、上を向いてささら天井を拭くのは、なかなかの力仕事でした。拭いても拭いても黒いままでしたが、一通り拭き終わると、家中が黒光りしているようで、これで正月が来る、と思ったものです。年末の大掃除は、家族全員での恒例行事で、家をきれいにするというよりは、この年のけじめをつける儀式のようなものでした。後は、床の間の掛け軸を変え、花を生けて、……………。



シロノセンダングサ(白の梅檀草) アメリカセンダングサと異なり白い舌状花があります。



○タンポポ(蒲公英)

この時季にも道端で元気に咲いているのは、セイヨウタンポポです。ニホンタンポポは春にしか咲きませんが、セイヨウタンポポの花期は周年です。春にタンポポの花を見ると、ニホンタンポポかどうかを確認しているのですが、近所で見えるタンポポはすべてセイヨウタンポポです。セイヨウタンポポは花の付け根のガクが反り返っているのですぐにわかります。また、ニホンタンポポは他家受粉でしか子孫を残せませんが、セイヨウタンポポは単為生殖です。交配相手のタンポポや花粉を運ぶ昆虫がいなくても子孫を残します。日本の四季の変化に関係なく繁栄している、無粋な花です。ただ、ガクの反り返りからセイヨウタンポポと見られるものも、遺伝子を調べると、そのほとんどはニホンタンポポとの雑種だそうです。どちらにしても、純粋なニホンタンポポは近いうちに絶滅してしまうのでしょうか。寂しいものです。

セイヨウタンポポ(西洋蒲公英)



生花新風体

ツルウメモドキ、スイートピー、イネ科の草の葉(もう、スイートピーが一輪、咲いていました。)



生花新風体

ノブドウ、椿、オクロレウカ



立華新風体

ヒペリカム、カニシタ、イネ科の草の葉、水仙、ヤツデ、アジサイ、寒菊、ビバーナム、ビワ

